

研究・調査報告書

報告書番号	担当
285	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
The impact of alcohol consumption on the risk of cancer among men: a 20-year follow-up study from Finland 飲酒が男性の癌のリスクに与える影響：フィンランドにおける 20 年の追跡研究から	
執筆者	
Toriola AT, Kurl S, Dyba T, Laukkanen JA, Kauhanen J	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Eur J Cancer. 2010 Jun;46(9):1488-92. Epub 2010 May 3	
キーワード	
アルコール、癌、コホート研究、エネルギー摂取、心肺機能、人口寄与割合	
要旨	
目的： 飲酒はある種の発癌と癌死亡と関係しているが、アルコールと総癌死亡との関係に関する知見は少ない。そこで、この関係を調べた。	
方法： ベースライン時に癌の既往がない東フィンランドの 2,627 名の前向き市民コホートのデータを解析した。	
結果： 20 年の追跡期間の 52,540 人年から 515 例の癌が生じた。飲酒量と癌との間に直線的な関係が観察された。アルコール消費量の最も多い分位(115g 以上/週)の男性は、年齢・喫煙・総エネルギー摂取量・心肺機能を調整して、最も少ない分位と比較して癌のリスクが 42% 高く(相対危険度 1.42、95%CI 1.07-1.88、 $p=0.03$)、追跡を始めた 2 年間に診断された癌を除いても結果は同様であった。1 日に 28.2g (中央値) 以上の飲酒をする男性は、それ以下の飲酒者と比較して相対危険度 1.22、95%CI 1.03-1.46、 $p=0.03$ であった。	
結論： この集団では 6.7% の癌が飲酒に起因していた。癌の負荷を減少させるためには、おそらく今の推奨量を超えた飲酒量の削減を受け入れなければならないだろう。	